

コロナ禍での消費拡大対策の強化とてん菜の安定的な生産維持を求める要望意見書

昨年10月以降、新型コロナウイルスの感染者数が減少傾向で推移していたことにより、各種イベント事業の入場者数の制限緩和や飲食業など外食産業の時短営業の解除など経済活動が活発化し、農畜産物需要の回復、消費拡大に大きな期待が寄せられていた。しかし、南アフリカでの変異株の初確認から、急速に欧州や米国などで感染が拡大し、日本も1月に入りこれまでの増加スピードを大幅に上回る感染者数が確認されている。これにより、出入国規制や移動自粛など感染対策が強化され、再びインバウンド需要の低迷や飲食店の利用者の減少などを引き起こし、先の見えないコロナ禍によって地域経済への打撃を深刻化させている。また、農業においては、昨年の農作物の作柄が全般的に豊作基調となったものの、長引くコロナ禍の影響から大幅な在庫を抱える状況に陥っており、米をはじめ、乳製品、砂糖など在庫解消に向けた更なる需要喚起と消費拡大対策が急務となっている。

なかでも、米においては、人口減での消費減少とコロナ禍による中食・外食産業の大幅な消費減少に加え、2021年産米が主産地で豊作となったことから滞留在庫が深刻化し、価格の低下から農家経済にも大きな影響を与えている。

一方、オホーツク地域の畑作農業における基幹作物であるてん菜について、国は砂糖消費の低迷や在庫の増大を背景として、需要が見込まれる作物である馬鈴しょや大豆への作付け転換を図る事業を措置し、てん菜の作付け抑制を図る方針を示した。しかし、輪作体系を維持するにはてん菜は欠かせない作物であり、馬鈴しょへの転換についても種馬鈴しょの確保や労働力不足など、多くの課題を抱えており、早急な対応は困難であると言わざるを得ない。

については、農業者が今後も安心して営農を継続できるよう、長引くコロナ禍に係る農畜産物の消費拡大対策等を強化するとともに、輪作体系の確立に不可欠であるてん菜の安定的な生産維持が図られますよう要望する。

記

- 1 新型コロナウイルスの変異株の急速な感染拡大により、収束の先行き不安から一層の観光事業の低迷、飲食業の利用客の落ち込みが長期化する懸念があり、今後も地域経済への影響が危惧されることから、米や乳製品、砂糖などの農畜産物の需要喚起と消費拡大対策を強化するとともに、地域経済を活性化する対策など地方自治体への対策関連予算を十分に措置する

こと。

- 2 てん菜の生産については、輪作体系の一翼を担う重要な作物であり、作付転換による影響は生産者のみならず製糖工場などを含む地域経済にも影響をもたらす懸念があることから、てん菜の作付面積を維持し、安定的な生産を持続できるよう慎重な対応を図ること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和 4 年 3 月 1 5 日

大空町議会議長 近 藤 哲 雄